

ほのぼん

ほのぼん
(杉山 武志)

1. 「ほのぼん」とは？

「ほのぼん」は本年度、西脇市における新たな教員プロジェクトとして、EHCに新規開設した。少し概要を説明しておきたい。

「ほのぼん」には、“ほのぼの”と“ほん”を掛け合わせてある。その名の通り、ほのぼのしながら本を楽しむというようなニュアンスがプロジェクト名に込められている。西脇市のまちなかにある旧ますや旅館を拠点とする西脇135という地域連携組織において、小さなリサイクル図書館を開館・運営している。本を介した地域交流の推進が目指されている「ほのぼん」の主催は西脇135に移管させてあるが、後述の経緯があって、杉山ゼミを中心とした教員プロジェクトとして西脇135を支援する立場で活動を継続している。

2. 経緯

事の発端は、2018年にさかのぼる。西脇市において策定された「まちなか活性化計画」の具体的な実行スキームが描かれていくにあたって、西脇市まちづくり課が大学との連携を模索していた。その際、「スキームづくりに入ってほしい」と声をかけられたのが杉山ゼミだった。ただ、一つの研究室ではさすがに荷が重いこともあり、太田ゼミ、三宅ゼミと協働して活動していた「にしわき☆スタディーズ」(当時)を受け皿にEHCと連携させる支援スキームとして参加を開始した。

2019年度には、地域創造機構の全学副専攻プログラム「地域創生人材教育プログラム(RREP)」の2回生配当科目「地域プロジェクト実践論」「地域プロジェクト演習」において、西脇市をフィールドとした授業を推進することとなった。計6プロジェクトのうちの一つ「地域連携拠点創出班」を筆者が担当した際、RREPにおいても「まちなか活性化計画」と関連させた活動を進めることになった。その活動成果として生み出されたアイデアが「ほのぼん」であった。

西脇市でのRREP活動終了後、2020年度以降の継続的な活動を俯瞰したときに、「ほのぼん」は「まちなか活性化計画」の一事業である西脇135に紐づけられているため、当初の連携スキームに描かれたEHCに関連づけておいたほうがよいと判断し、EHCの教員プロジェクトとして活動させていくことにした。

3. 2020年度の活動

コロナパンデミックの影響に伴い、主だった活動に参加しづらい難しい一年であった。緊急事態宣言が発出されたこともあって、西脇135においても身動きが取れない状況であり、もどかしさを覚える日々が続いている。

そのようななか、2020年10月24日に「まちなかりサイクル図書館『ほのぼん』再起動!」と題して、「多世代交流ビブリオバトル135」が西脇135主催、西脇市図書館、西脇市図書館サポート隊テントウズ共催のもとオンライン開催された。参加者がおすすめの本を1~2冊もちより、「つながる」「自由論題」テーマで2回のバトルが繰り広げられた。会には「ほのぼん」学生メンバーも4人が集い、オンラインで参加した。学生メンバーからは「ほのぼん」を開館するに至った経緯など説明も行われた。

3. 次年度に向けて

問題は次年度の活動をどのように継続していくか、にある。ビブリオバトルであればオンライン参加の継続でよいのかもしれないが、コロナパンデミックの終息が見えないなか、当初より予定されていた月2回土曜日に学生たちが西脇135に通って「ほのぼん」の支援を行える環境にはない。一方で西脇135は、西脇市「まちなか活性化計画」の核の事業の一つであり、その西脇135のメイン事業の一つに選ばれている「ほのぼん」の灯りを消すわけにはいかない。西脇市役所、西脇135、西脇TMOとの連携のもと、オンラインともミックスさせた「ほのぼん」の新たな企画を立案していくことを次年度の課題としておきたい。



図1:「ほのぼん」のある西脇135外観
(出所) 杉山撮影